
大学入試改革からみる、 子どもが身に着けてほしい力

～親や教師はいま何をすべきか～

NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長

生重 幸恵

<https://www.sanet.jp/>

まずは自己紹介から・・

北海道出身

P T A 活動から出発し、子供たちの教育活動（学校教育・学校外教育）支援を通しての「地域活性化」を目指して、近隣学校の P T A 会長経験者とともに特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワークを設立し、以来代表を務めている。

- ◆ 【文部科学省】 中央教育審議会 第 9 期中央審議委員
中央教育審議会 生涯学習分科会委員
中央教育審議会 高大接続特別部会委員
中央教育審議会 実践的な職業教育を行なう
新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会委員
中央教育審議会 地域とともにある学校の在り方に関する作業部会委員
中央教育審議会 学校地域協働部会委員
コミュニティ・スクール企画委員会委員及び推進員
(C S エグゼクティブ)
 - ◆ 【内閣府】 地域活性化伝道師
 - ◆ 【農水省・文科省・総務省】 三省連携事業
「こども農山漁村交流プロジェクト」推進協議会委員
 - 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長
 - カンコー教育ソリューション研究協議会 理事
 - キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事
-

日本社会の問題点

少子高齢化の進展

- 将来の負担が次世代へ
- 社会全体の活力低下

社会格差の増大、固定化

- 一人一人の意欲衰退、社会の不安定化

地域社会、家族の変容

- 社会の絆の喪失、個々人の孤立化

産業構造・雇用の変化

- 失業率、非正規雇用の更なる拡大

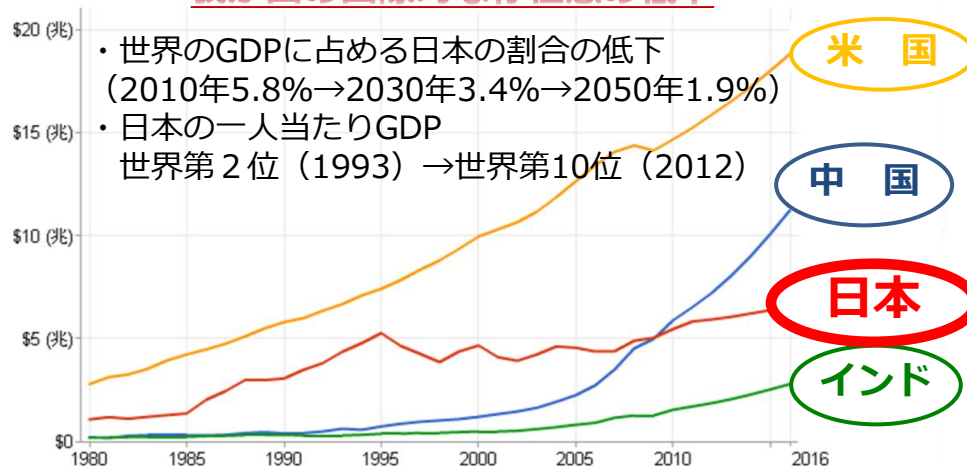
グローバル化の進展

- 国際競争力の低下・産業等の空洞化が懸念経済規模の拡大のみの限界
-

今、向き合わなければならない課題

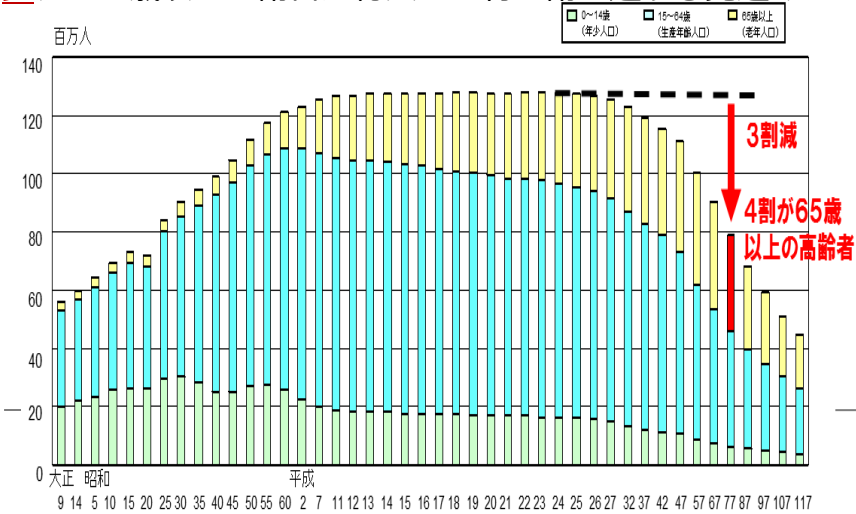
グローバル化の進展

我が国の国際的な存在感の低下



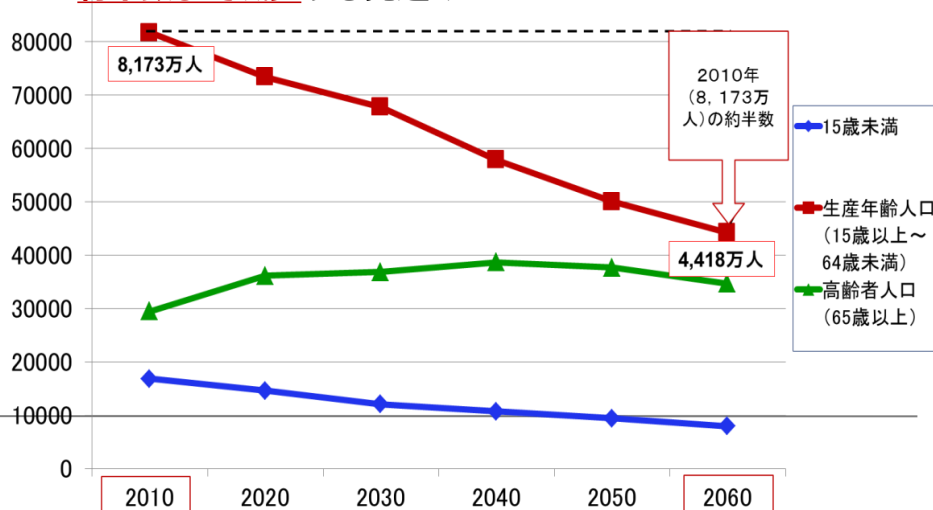
人口の推移と将来人口

少子高齢化の進行により、**約50年後には総人口が約3割減少**、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み。



生産年齢人口の推移

生産年齢人口も減り続け **2060年には2010年と比べ約半数まで減少**する見込み。



子どもたちの未来

現在の職業の多くは、今後なくなっていく

今後10～20年程度で、約**47%**の仕事が自動化される可能性が高い

子どもたちの**65%**は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

すでに身近な生活に・・・

人工知能AI



金融

三菱UFJ信託、AIが運用する投資信託

(2016年5月8日 日本経済新聞)

芸術

人工知能が描いた「レンブラントの新作？」

(2016年4月14日 WIRED)

サービス

新宿伊勢丹で「人工知能」による接客サービス

利き酒、ソムリエ、ファッションアイテムの提案・・・
(2016年10月13日 SENSORS.jp)

教育

ジョージア工科大、TAが人工知能だったことに
学生が誰も気づかなかった (2016年5月12日 Gizmodo US)

料理

IBMのワトソンシェフが創作レシピを考案

料理本を出版へ (2015年4月10日 CBS Interactive)

医療

人工知能で病名突き止め患者の命救う

国内初 東京大学医科学研究所 (2016年8月4日 NHK)

経営

日立製作所 企業の経営判断を支援する人工
知能システムの実現へ

(2016年6月2日 日立製作所ニュースリリースより)

これからの教育を支える
コミュニティスクール

土曜日の教育活動

コミュニティスクール（運営協議会と学校支援機能の一体推進）

学校運営協議会

教育課程など
学校運営にあたっての
基本方針を説明

説明を受けて審議、承認

学校運営についての意見

教職員人事についての意見
(行わない協議会もあります)

チーム学校

教職員
SSW・SC

一体推進
または
報告・相談

学校支援機能

環境整備活動

校内環境整備活動を支援

読書活動支援

図書室整備、朝の読み聞かせ

学習支援活動

校外活動の引率・学習補助など

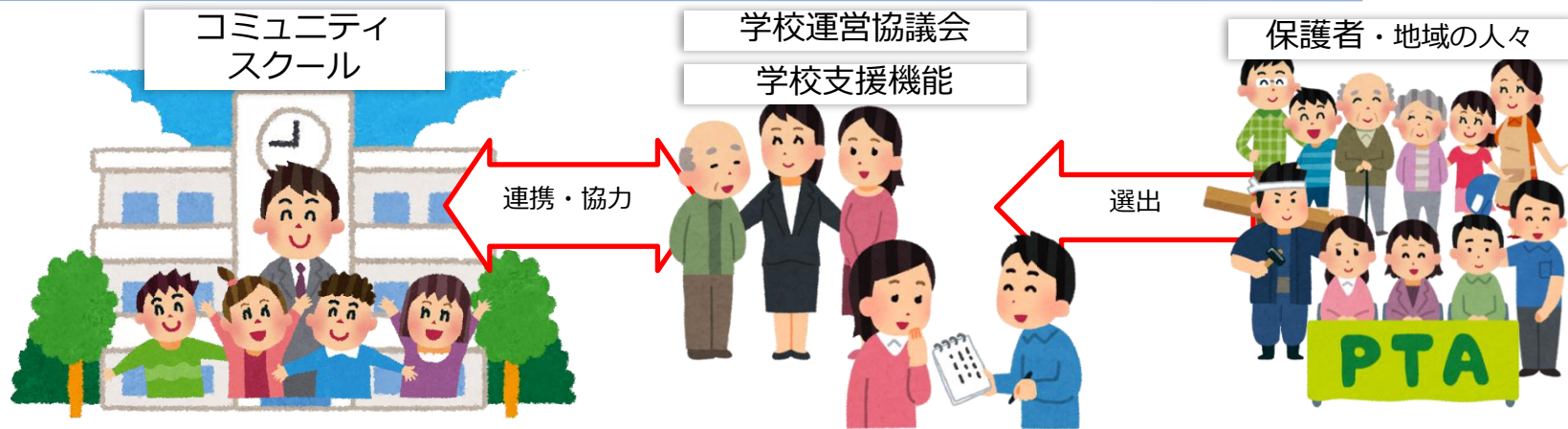
行事運営支援

学校行事の運営の支援

授業支援

授業に専門家や地域の人を
ゲスト講師として紹介

コミュニティスクールについて



学校がこれまで培ってきた
教育の基盤、伝統、習慣
などを受け継ぐことができます。

保護者、地域から寄せられ
た意見を審議し、学校運営
に生かすことができます。

課題解決に向けて、
学校、保護者、地域が一体と
なって進むことができます。

それでは、コミュニティスクールの円滑な運営のためにできることは…？

コミュニティスクールの円滑な運営のために

熟議のススメ

立場の違いを超えて、
理解しあうことが大切

円滑にコミュニティスクールの運営を進めるため、
学校と地域は少しずつ焦らずに関係性を築いていくことが大切です。
すでに活動を行っている方々からのアドバイス…それが熟議です！

STEP 1 教員による熟議

- ・地域連携でどのような取り組みをしたいか
- ・地域に助けてもらいたいことはどういうことか
- ・どのような学校づくりをしていきたいか

STEP 2 地域・保護者による熟議

- ・どのような子どもたちに育てていきたいか
- ・学校にどのような協力ができるか
- ・どのような学校になったらいいのか

STEP 3 教員・地域・保護者による熟議

- ・地域と協力し合った学校づくりとは？
- ・育てたい子ども像とは？



コミュニティ・スクールの効果

杉並区教育委員会地域運営学校成果検証調査報告書（平成26年度）より

コミュニティスクール設置校と非設置校とでの意識を比べてみたところ、コミュニティスクール設置校の教員は、「学習意欲」「ルール遵守」「体験活動への積極的取り組み」「地域活動への積極的参加」「地域の大人への挨拶」など様々な面で、児童生徒への肯定的評価の割合が、非設置校の教員より高いことがわかりました。その結果は、児童生徒対象調査におけるコミュニティスクール導入の有無別分析とも整合していました。つまり、コミュニティスクールの導入は、児童生徒の行動にプラスの影響をおよぼす可能性が高いといえます。

土曜日の教育活動の形態



① 「土曜授業」

教育課程内の学校教育活動

② 「土曜の課外授業」

学校が主体であるが、授業ではなく、自由参加

③ 「土曜学習」

学校外（自治体や地域）が主体となってプログラムを提供

「土曜日ならではの」の多様なプログラムづくり

① 実社会につなぐ

- 社会で役立つ経験をするプログラム
- 多様なロールモデルや「本物」に触れるプログラムの充実

② 企業のリソースを生かす

- 学校教育だけでは教えることが難しい実社会の経験を踏まえたプログラム
- 環境教育、キャリア教育、国際理解等の企業の特性を生かしたプログラム

③ 学習意欲・習慣形成につなげる

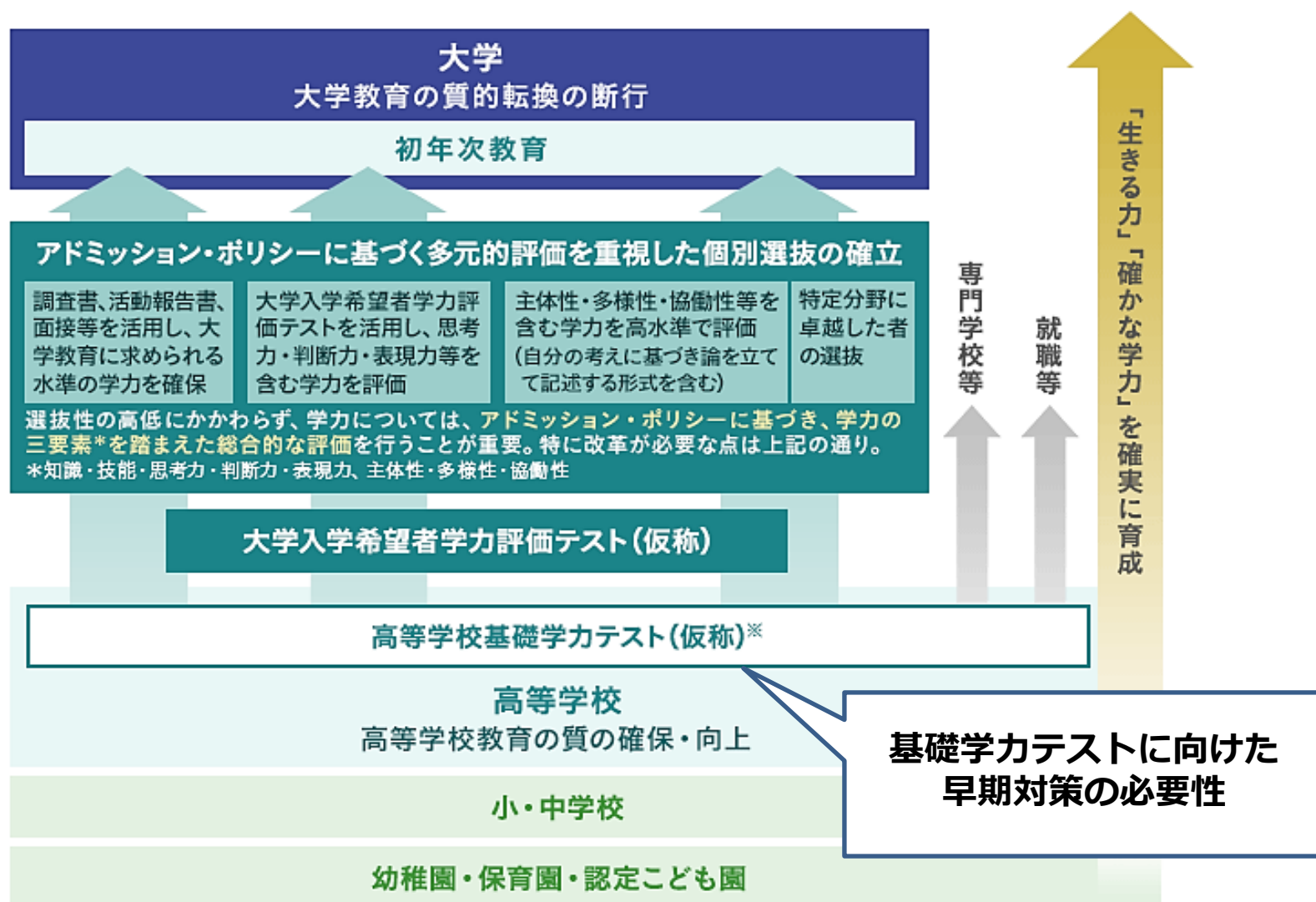
- 就学前の子供たちが学ぶ楽しさに出会うプログラム
- 振り返り学習や発展的な学習の充実

④ 「地域ならではの」

- 地域の目標を踏まえ「ふるさと教育」や「学力向上」などの地域の特性や課題に応じたプログラム
- 多様性を重視したプログラム等

大学入学者選抜者改革

大学入学者選抜改革 ～新しい大学入試のイメージ～



※「高等学校基礎学力テスト(仮称)」は、入学者選抜への活用を本来の目的とするものではなく、進学時への活用は、調査書にその結果を記入するなど、あくまで高校の学習成果を把握するための参考資料の一部として用いることに留意。

大学入学者選抜改革 ～現行制度との比較～

現行

高校
段階の
学力
評価

共通試験はなく、各学校が
独自の内申書で評価

全問
マーク形式

センター試験

- ・ 6教科29科目
- ・ 年1回実施
- ・ 結果は素点で示す
- ・ 英語は筆記とリスニング

各大学が独自のペーパー
テストを実施し1点刻み
で合否を判断

AO入試では事実上学力
不問

共
通
試
験

各
大
学
の
個
別
試
験

新制度

高等学校基礎学力テスト

必修教科の学習到達度を
図る

大学入学希望者学力評価テスト

- ・ 知識の活用力をみる問題
- ・ 年複数回実施
- ・ 結果はレベル別で示す
- ・ 英語は4技能を評価
(読む・書く・聞く・話す)

マーク形式
+
記述式

- ・ 面接，小論文，集団討論
などで多面的に評価
- ・ ペーパーテストは論述式
に限定
- ・ 基礎学力テストの成績を
参考

大学入学者選抜改革 ～個別入学者選抜改革について～

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）に基づく 多面的・総合的な選抜への転換

- 各大学の入学者受入方針に基づき、多様な背景を持つ高校生一人一人の高校までに積み上げてきた多様な経験・能力を多面的・総合的に評価。

検討すべき論点

総合的・多面的な評価として、何をどこまで求めるべきか。
実践するためのノウハウはあるか。

多面的・総合的な評価による丁寧な入試（評価方法の例）

大学入学希望者学力評価テスト
（仮称）

調査書

高等学校基礎学力テスト（仮称）

小論文

活動報告書

資格・検定
試験の成績

面接、集団討論、
プレゼンテーショ
ン

各種大会等での活動
や顕彰の記録

高校段階の学習成果把握のための参考資料の一部として活用

大学入学者選抜改革 ～出題事例～

出題事例①

「ある星から地球に視察にやってきた宇宙人が、次のような質問状を残していきました。

『地球でいちばん驚いたことは、地球人が国と呼ばれる単位に分かれて暮らしていて、国ごとに異なる制度の下で競い合っていることです。私たちの星には、国という制度ばかりか、その概念すらありません。そこでお聞きしたいのですが、地球人はなぜ国という単位に分かれて暮らすことを好むのですか？』

以上の質問状に書かれた問いに答える形で、宇宙人への返事を400字程度で書きなさい。」

大学入学者選抜改革 ～出題事例～

出題事例②

エジプトの神様と王様の話

神様

「人は文字を学ぶことで、知恵と記憶力が鍛えられる。人は文字を学ぶべきだ」

王様

「人は文字を学ぶことで、記憶しなくなり、忘れっぽくなる。また、文字から得られる知恵は、外面的な知恵であり、人は見かけだけの博識家になって墮落する。」

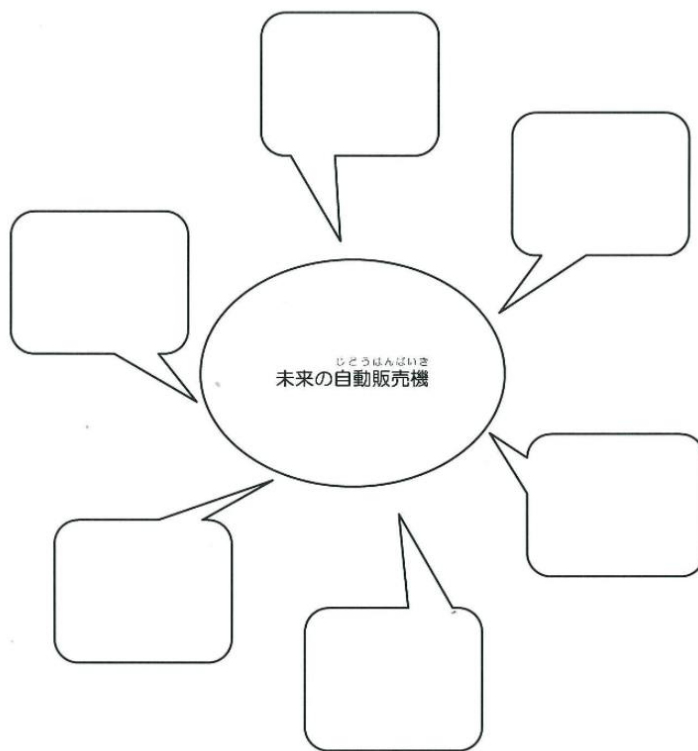
王様の意見に反論せよ。またその意見に対し、再反論せよ。

ユニークな中学入試問題 ～出題事例～

大学入試改革の影響で「思考力」をはかる方向になっている

出題事例①

「未来の自動販売機」から連想する言葉を、できるだけ多くふきだしの中に書きましょう



ユニークな中学入試問題 ～出題事例～

答えは日常の中に

出題事例②

首都圏のある駅名標に表示されている略称「JY」は何を表しているか具体的に答えなさい(2017年開成中学社会試験問題)



答え:JR山手線

これから必要とされる力をつけるために

●キャリアパスポート導入

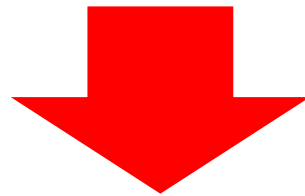
小学校・・・平成33年

中学校・・・平成32年

高校・・・平成31年

●積極的な資格取得

英語検定・TOIEC・TOEFL・漢字検定・数学検定など…



大学入試改革に求められる力

主体的な学びとは

第1部 学習指導要領改訂の基本的な方向性

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。子供自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身についた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。



学校での学びが将来につながっているか。
志望大学へ合格するための学びでは決してないはず。

次期学習指導要領 答申

第1部 学習指導要領改訂の基本的な方向性

人工知能がいかに進化しようとしても、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。

多様な文脈が複雑に入り混じった環境の中でも、場面や状況を理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このために必要な力を成長の中で育んでいるのが、**人間の学習**である。

今後求められる力とは・・・

- **真の「学力」の育成**

思考力・判断力・表現力や主体性を持って多様な人々と協働する態度

- **確かな学力**

基礎的な知識及び技能を習得し、それらを活用して課題を解決するために、必要な思考力・判断力・表現力等の能力、そして主体的に学習に取り組む態度

教育課程の方向性

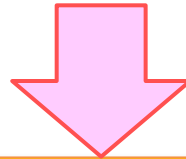
キーワードは、「**社会に開かれた教育課程**」

資質・能力の要素を3つの柱とする。

**何を知っているか、
何ができるか**
(個別の知識・技能)

**知っていること・できることを
どう使うか**
(思考力・判断力・表現力)

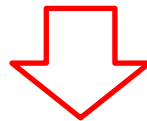
**どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか**
(学びに向かう力・人間性等)



**変化の中に生きる社会的存在として、
力をつける**

見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

- 児童・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる
- 自主的に学ぶ態度をはぐくむことで、学習意欲の向上をはかる

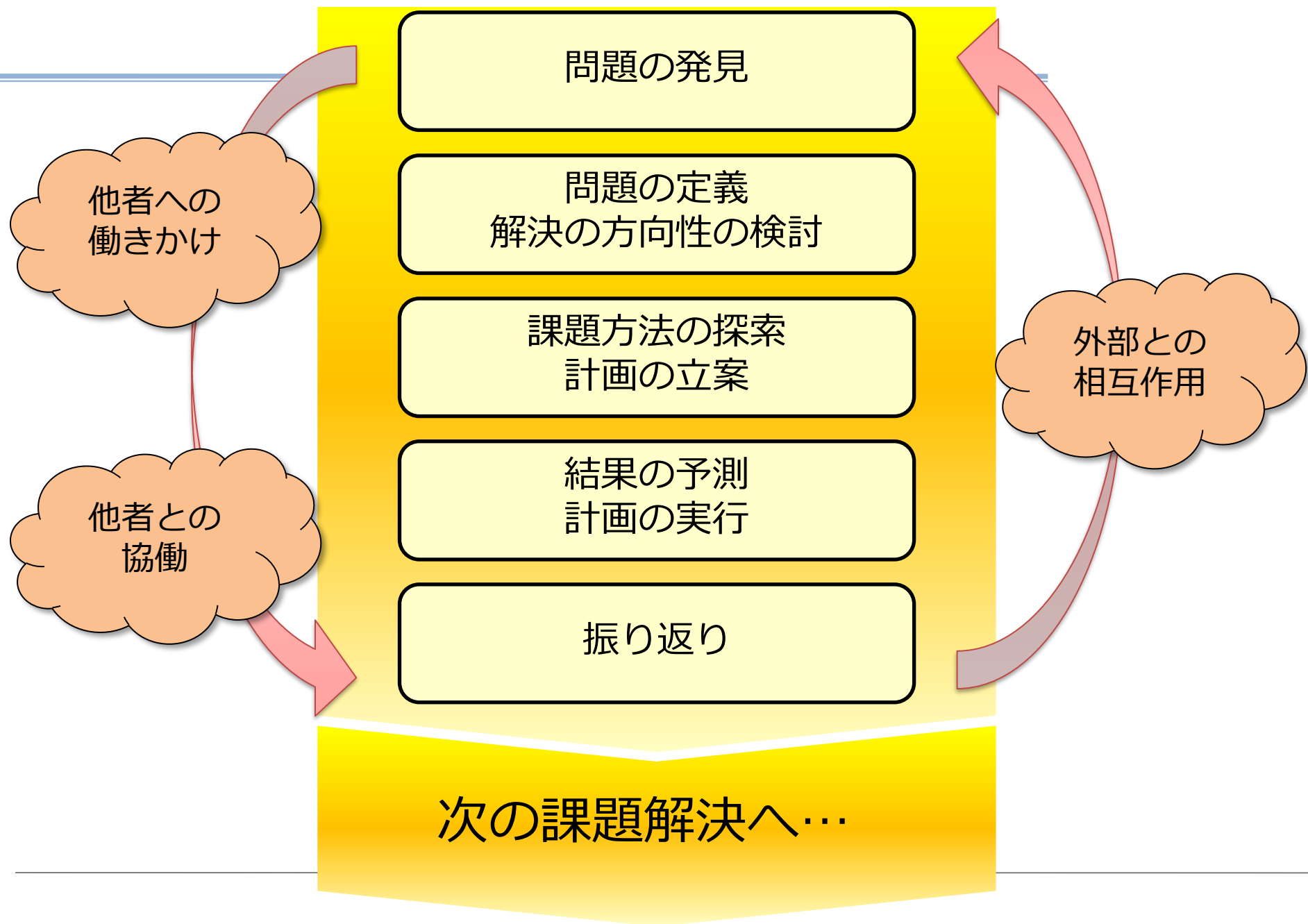


- 授業の冒頭に授業での学習の見通しを児童・生徒に理解させる
- 授業の最後に児童・生徒に授業で学習した内容を振り返る機会を設ける



**学習内容の確実な定着が図られ、
思考力・判断力・表現力等の育成につながる**

問題発見・解決のプロセス



学校と地域の連携による教育の可能性

地域貢献

ふるさと学習

ボランティア活動

地域名産品による商品開発

地元の魅力を発信

新聞・フリーペーパーによる発信

英字新聞

観光につなげる

【学びを深める】～体験内容・インタビュー内容をまとめた冊子づくり～

体験だけで終わりではない
事後の振り返りと内容の共有も大切



【学びを深める】～体験内容・インタビュー内容をアウトプットする冊子づくり～



子どもたちの学びの内容をまとめ、学校の広報物としての活用も可能



Produced by TOSHIMAGAOKA JOSHI GAKUEN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL • GEIG • The Japan Times

TOSHIMAGAOKA TIMES

Special Edition December 2015

Caring students embody school spirit

First-time visitors to Toshimagaka Joshi Gakuen Junior & Senior High School tend to think that it is an elite, serious, diligent and quiet school that is oriented toward admission to prestigious universities. As you spend time here, however, you may be surprised to find many new things about its students and the environment.

Toshimagaka, in Ikebukuro, Tokyo, is a school where the relationship between teachers and students is so close and friendly that the atmosphere on campus is warm and honey. Such an atmosphere apparently derives from the history of the school, which was opened by a private family and has developed without financial help from the government, business or religious organizations. And all of the Toshimagaka students work very hard studying and in club activities.

"Be a pretty girl," Tomokichi Futaki, the fifth principal of the school, often said. Many graduates from this girls' school grew up hearing this phrase. Shino Takahashi, the seventh and current principal of the school since 2013, and some other teachers are among them.



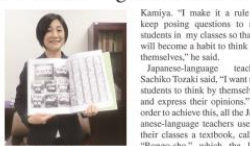
The front gate of Toshimagaka Joshi Gakuen Junior & Senior High School in Higashi-Ikebukuro, Tokyo.

loved and still love this school," said Principal Takahashi, adding "even if we have many changes, there are several things that mustn't be changed, for example, the kind hearts. Every student of this school is considerate to their peers and teachers, and I hope they maintain such an attitude forever."

Moreover, Takahashi, the first female principal of the school, demands that the students be active in their everyday lives. "Being passive is easy, but we can learn nothing by only waiting for someone's advice. You must act on your own will."

Several other teachers sometimes tell their students the same thing and this phrase has become a new motto for the school. At this school, which observed the 120th anniversary of its founding in 2012, there are about 30 clubs and all students have to belong to at least one. Some of these clubs, including the chorus club, the go (Japanese chess) club and the calligraphy club, are known outside of the school as they sometimes

Teachers at heart of Toshimagaka's community of learning



Principal Shino Takahashi

Through his classes, students can develop the abilities to identify problems and to think seriously about how to solve them, and to distinguish knowledge from the way of thinking, said

Kamiya. "I make it a rule to keep posing questions to my students in my classes so that it will become a habit to think for themselves," he said.

Japanese-language teacher Sachiko Toraki said, "I want my students to think by themselves and express their opinions." In order to achieve this, all the Japanese-language teachers use in their classes a textbook, called "Rango-sho," which the late fifth principal, Tomokichi Futaki, and the Japanese-language teachers at that time compiled from Rango, or "Analogs of Confucius," a collection of sayings and ideas attributed to the Chinese philosopher.

NOTICE TO READERS
Toshimagaka Times was created by a group of 20 selected students of Toshimagaka Joshi Gakuen Junior & Senior High School in Tokyo. We are proud to have been able to publish their articles from various angles for the first time outside of the school and abroad. - Editor

Produced by UYAMADA COMMERCIAL HIGH SCHOOL • GEIG • The Japan Times

THE YAMASHO TIMES

Special Edition MAY 2016

Miyadaiku carpenter lives Ise Shrine legacy

With a 2,000-year history of ethnic and religious tolerance, and embracing diversity, Ise Jingu, or the Ise Grand Shrine, is the heart and soul of the Japanese people. Helping to preserve this precious legacy is the *miyadaiku*, a carpenter who specializes in building and preserving Japanese architecture, particularly shrines and temples.

Ise Jingu holds a grand festival every 20 years called *Shikinen Sengu*, where the two key shrines, Naiku, the Inner Shrine, and Geku, the Outer Shrine, are completely rebuilt by the *miyadaiku*. At age 84, Kuma Miyama has had the honor of working on the *Sengu* three times. "I want visitors to the G-7 Ise-Shima Summit go to Ise Jingu. Although there are many old things in the world, Ise Jingu is very special," he said.

Miyama became a *miyadaiku* when he was 18 and experienced his first *Shikinen Sengu* at the age of 21. After his second *Sengu* at the age of 41, in 1993, he

became the *so-toryo*, or the leader of the *miyadaiku* for his third experience of the *Shikinen Sengu*. His pride in his work is clearly evident in his words. "As a *miyadaiku*, doing a good job is to be expected." Building shrines is very difficult because of the unique architectural style called *yuzi* *shimaei-cukuri*. Miyama said they were building houses not for humans but for the gods, so they make sure every part is beautiful, even if it is out of sight. When he accomplished his job as *so-toryo*, he said he felt a sense of achievement. He is now dedicated to training the next generation of *miyadaiku*.

But passing on the legacy to the next generation is not easy because of the changing times. For example, it is getting more difficult to get enough quality wood. While the number of thick and hard trees is decreasing, the size of shrines can't be changed, so instead of using one wooden board, they now use two



Kuma Miyama, an 84-year-old miyadaiku carpenter, working on a shrine.

similar boards. Miyama said that the wooden materials used for old shrine buildings are not thrown away but are brought to other shrines all over Japan to be reused.

Miyama said that he did not have faith in the gods when he was young. "However, I came to become more thankful to the gods as I got older. I am truly thankful for them because I was able to work as a *miyadaiku* for 40 years and I never had any serious injuries or accidents," he said.

Miyama believes it is always better to have sincerity and gratitude rather than dissatisfaction or complaints. "We can't see the gods, but it all depends on how we think about them," he said. "*Shikinen Sengu* is an occasion to inherit not only traditions but also sincerity, gratitude, wisdom and the pride of conserving Japanese traditions. The times are changing, but these lessons will not change."

Mie is 'hometown' of Japanese spirituality: Gov. Suzuki

Mie Prefecture, the venue of the upcoming Group of Seven summit at Ise-Shima, is the "spiritual hometown" of the Japanese, imbued with a spirituality that transcends differences in religions, races and generations, according to Mie Gov. Etsuji Suzuki.



Mie Gov. Etsuji Suzuki (center)

"Mie is home to Ise Shrine, famed for a spirituality that embraces diversity and allows people to live together in harmony," Suzuki said in his message from Mie Prefecture to the foreign leaders and visitors on the occasion of the G-7 summit.

In an interview with The Yamasho Times at his office, the former trade and industry ministry bureaucrat said that Mie abounds in culture and tradition,

in addition to its natural beauty. "In the ancient cities of Kyoto and Nara, you can see many historical and traditional landmarks, like temples or pagodas. These places are the center of Japan's visible culture. On the other hand, Mie is full of invisible but valuable things," Suzuki said, in an apparent reference to the Japanese spirituality inherent in Ise Shrine's tradition, physical structures and teachings.

The former bureaucrat also said that local people in Mie are known for their centuries-old hospitality. "So many people have been visiting Ise Shrine to pray especially since the Edo Period. Not a few pilgrims or visitors had difficulties on their way because they did not have much money or food, so local people living along the main road to the shrine gave them lodgings and aims. We have inherited the cordial hospitality that we provide to visitors from our ancestors and cherish it."

While emphasizing that his prefecture is fully prepared to ensure the safety of foreign VIPs and other guests during the summit, the governor hoped that

NOTICE TO READERS
The Yamasho Times was created by a group of 20 selected students of UYAMADA COMMERCIAL HIGH SCHOOL in Mie Prefecture. We are proud to have been able to publish their articles from various angles for the first time outside of the school and abroad. - Editor



認知的能力

Cognitive Skills

I Q（知能指数）や学力など
数値化が可能な能力

相互作用の
関係にある



プラスの影響

（情緒の安定・意欲や向上心 \times 他者とのかかわり）

非認知的能力

Non Cognitive Skills

生きていくために大切な情緒
目標に向かう力・他者協働の力
（社会情動的スキル）